

エコアクション21

環境経営レポート

(対象期間:2024年4月1日~2025年3月31日)



東京特殊車体株式会社

2025年7月11日



®環境省

エコアクション21

認証番号 0009144

目 次

1.	組織の概要	1
2.	環境経営方針	2～3
3.	環境管理体制及び役割	4
4.	過去3年間の環境負荷の状況	5～6
5.	環境経営目標	7
6.	今年度の環境経営計画と実績	8～10
7.	環境関連法規等の遵守状況並びに違反、 訴訟等の有無	10
8.	代表者による評価と見直し	10

1. 組織の概要

1. 事業所名

東京特殊車体株式会社

2. 代表者氏名

代表取締役 西岡 偉久

3. 所在地

〒192-0907 東京都八王子市長沼町 1304 番地の 1

4. 環境管理責任者

総務部長 大川 晶

連絡先：TEL：042-644-3517 E-Mail：akira.okawa.tsc1@toutoku.co.jp

5. 事業の規模

資本金 : 40,000 千円

年商額 : 2,969 百万円(2024 年度実績)

主要品生産量 : その他製造業（特種車両の製造：86 両（2024 年度実績）

従業員数 : 61 名（2025 .3.31 時点）

延床面積 : 6,084 m²

敷地面積 : 9,312 m²

6. 事業活動の内容

各種特種車両の設計・製造販売・修理

7. その他

設立年月日：1967 年 2 月 10 日

認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : 東京特殊車体株式会社

関連事業所 : なし

登録対象外 : なし

活 動 : 各種特種車両の設計・製造販売・修理

2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

東京特殊車体株式会社は、「環境にやさしく」という京王グループ理念に基づき、環境保全に配慮し、環境負荷低減を目指した事業活動を行います。

1. 環境保全活動を推進するにあたり、技術的・経済的な事情を勘案のうえ、京王グループ環境基本方針に沿って、以下に掲げる環境負荷項目の低減に努めます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の抑制と再利用の向上
 - (3) 節水の実践
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
2. 2023 年度までは環境経営を継続して改善するため、全社員参加の改善活動である「ONE1019 (ワントウトク)」の中で具体的目標を策定して取り組みを行ってまいりました。
今年度は、2022～2023 年度の大幅な赤字からの脱却のため、「収益改善」に全社員で注力することといたします。あわせて、2026 年 6 月に予定する「新工場移転準備」もすすめる必要があり、全社の人的リソースの制約に鑑みて 2024 年度からは「ONE1019」は休止することといたします。
しかしながら、「収益改善」・「新工場移転準備」への取り組みは抜本的な業務改善への取り組みでもあり、その成果の導出を通じて環境負荷項目の低減に必ず寄与するものと考えております。
なお、環境経営目標は定期的に、あるいは必要に応じて適時見直しを行います。
3. 環境に関する法令、規制その他公的基準を遵守します。
4. 環境方針を全従業員に周知するとともに、環境に配慮した製品・サービスを提供することにより、全社一丸となって環境保全に貢献します。
5. 環境保全活動等については、環境経営レポートとして公表します。

制定 2017 年 4 月 1 日

改訂 2024 年 4 月 1 日

東京特殊車体株式会社
代表取締役 西岡 偉久

《参考》

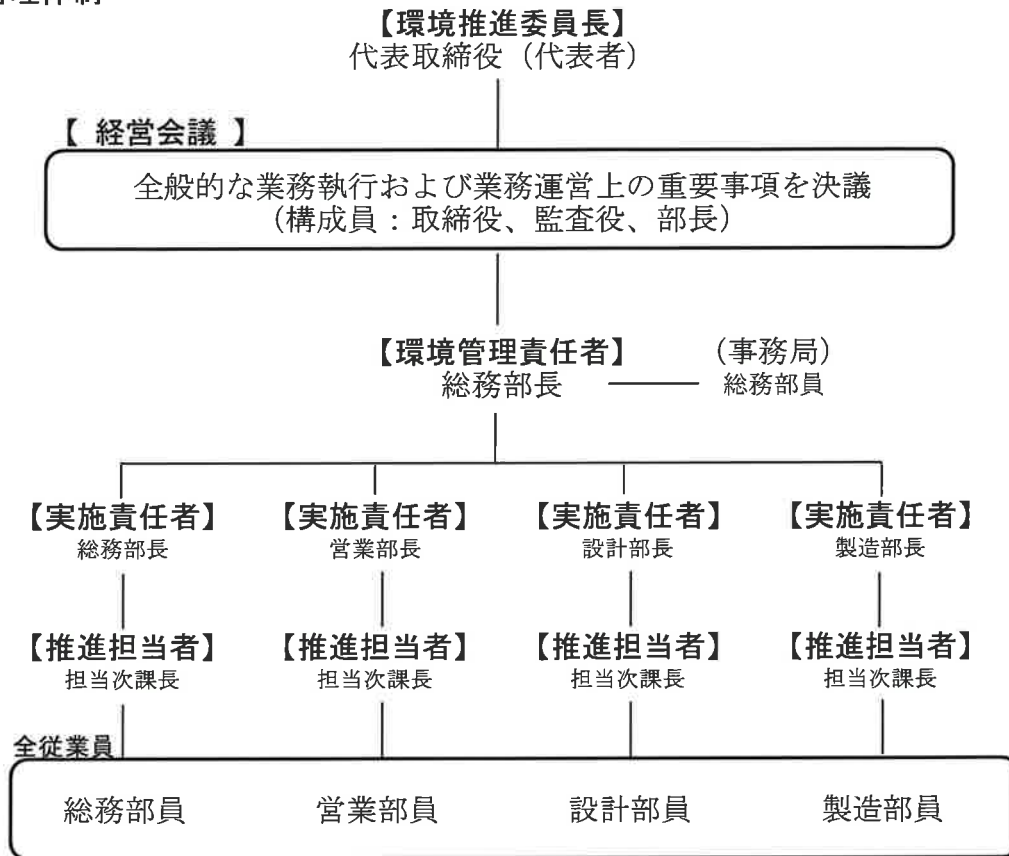
「京王グループ環境基本方針」

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づきステークホルダーの皆様のくらしを支える事業を通じて、未来社会に豊かな環境を引き継ぐために、環境に配慮した活動を行います。

1. 気候変動の緩和のために、温室効果ガスの排出量削減やエネルギーの効率利用に努め、気象災害に適応したインフラを構築します。
2. 効率的な資源の利用、廃棄物の削減、リサイクルに取り組み、資源循環を推進します。
3. 汚染の予防をはじめとする、環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 当社グループが事業を展開している地域社会との調和のために、騒音、振動の抑制に継続的に取り組み、くらしの豊かさをもたらす生物多様性の保全に努めます。
5. 地域コミュニティや社会の環境活動への参加を通じて、良好な環境づくりを推進します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、教育・啓発活動を行います。
7. これらの環境活動を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます

3. 環境管理体制及び役割

1. 管理体制



2. 役割分担

名称	役割・責任
環境推進委員長 (代表者)	- 環境活動全般の推進 - 経営における課題とチャンス の明確化 - 環境管理責任者の任命 - 環境活動の評価、見直し(年1回) - 環境経営方針の作成 - 経営資源の確保
環境管理責任者	- 活動の構築、運用 - 各種会議体の開催 - 代表者への報告 - 事務局運営 - 取組み状況の確認と改善 - 外部からの苦情の窓口
事務局	- 環境責任者、運営のサポート - 環境経営レポートの作成 - 各種データの取得、記録 - 啓蒙活動の推進
実施責任者	- 各部門の統括 - 推進担当者のフォロー - 活動計画実施状況の監督
推進担当者	- 活動計画の実務推進 - 取組みに対する意見の集約、具申 - 環境活動の実施状況の報告
全従業員	- 環境経営方針の理解、取組みの意義・重要性の自覚 - 環境活動への参加、環境経営計画の実行

4. 過去3年間の環境負荷の状況

環境への負荷(指標及び種類)			単位	2022年度	2023年度	2024年度
				2022.4-2023.3	2023.4-2024.3	2024.4-2025.3
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素		t-CO ₂	267.9	268.5	277.2
② 廃棄物排出量	資源物	再生利用	t	52	58	49
		焼却処理	t	4	4	4
	産業廃棄物	中間処理	t	33	30	30
③-1 総排水量	下水道		m ³	768	1,013	979
③-2 水使用量	上水		m ³	307	485	492
	地下水		m ³	547	744	696
④ 化学物質使用量	PRTR		kg	799	2,178	2,017
	都管理物質		kg	1,227	3,675	3,298
	総排出量		kg	1,390	4,156	3,759
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	3,381,116	3,986,146	4,041,639
	化石燃料		MJ	1,547,208	1,547,832	1,671,600
⑥ 物質使用量	資源使用量		t	218.6	287.9	330.1
⑦ サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質		-	対象なし	対象なし	対象なし
	水の利用量		-	対象なし	対象なし	対象なし
⑧ 総製品生産量	製品生産量(新車)		台	49	75	86

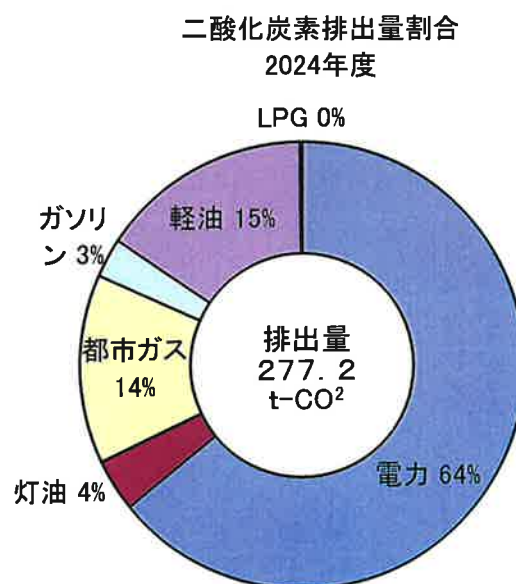
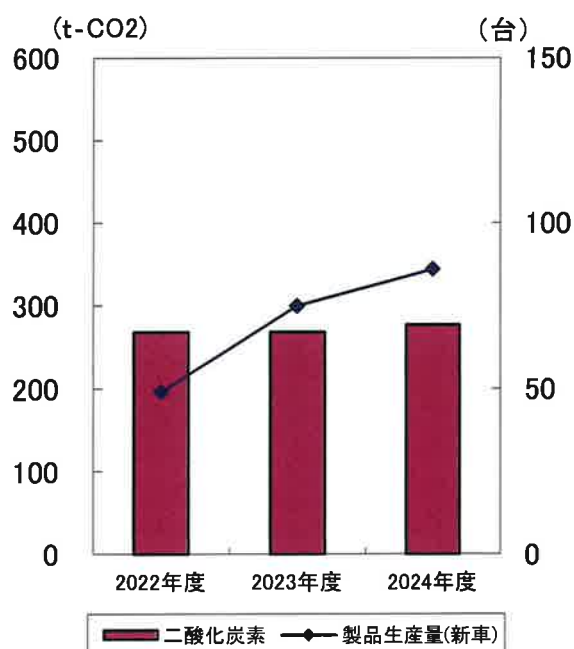
※CO₂排出量の計算に使用した電気のCO₂排出係数は

2014年度までは 0.377kg-CO₂/kWh

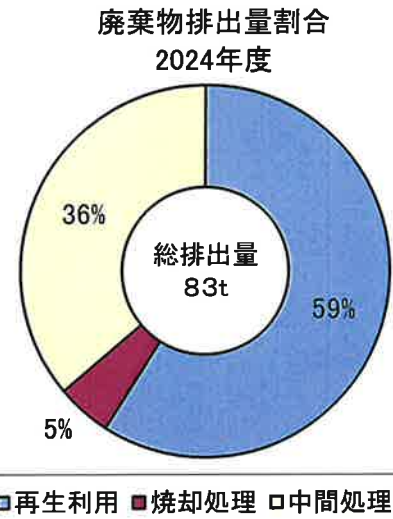
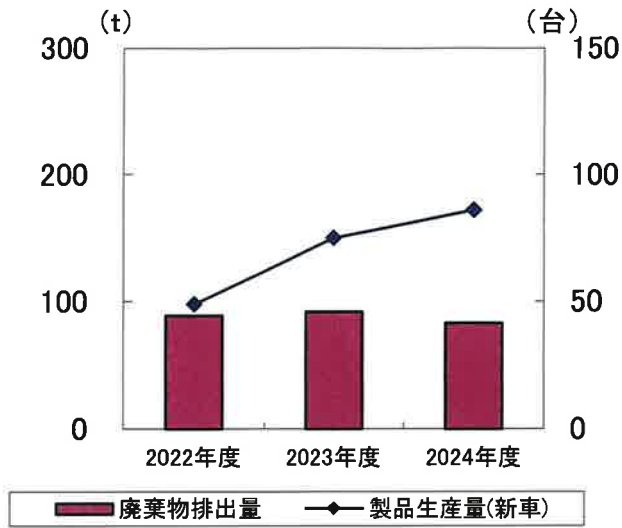
2015年度からは 0.382kg-CO₂/kWh、

2021年度からは 0.441kg-CO₂/kWhで算出してます(上表のCO₂過年度分は再計算)

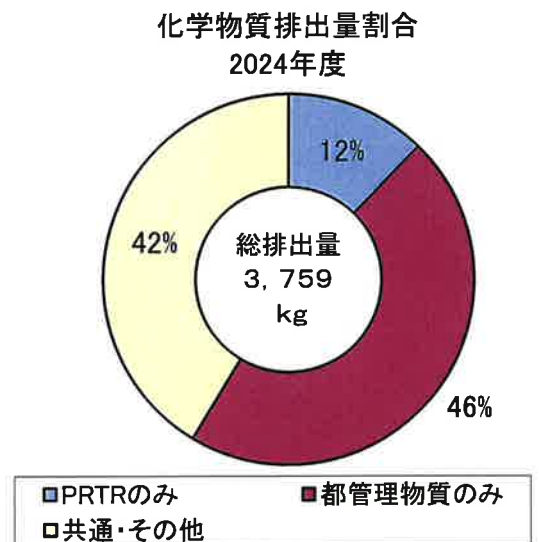
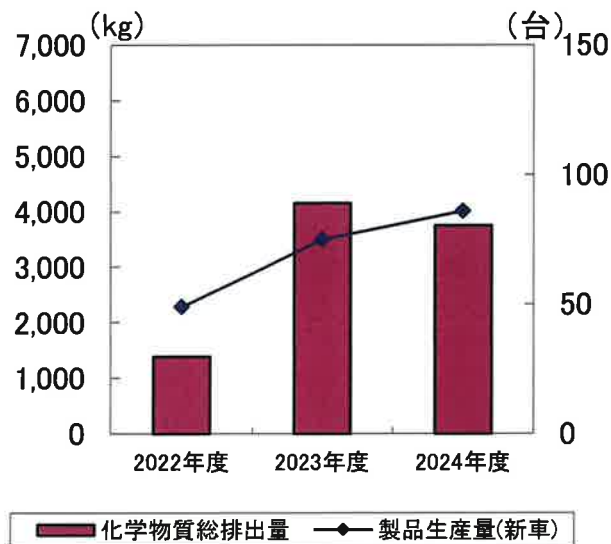
二酸化炭素排出量と生産量



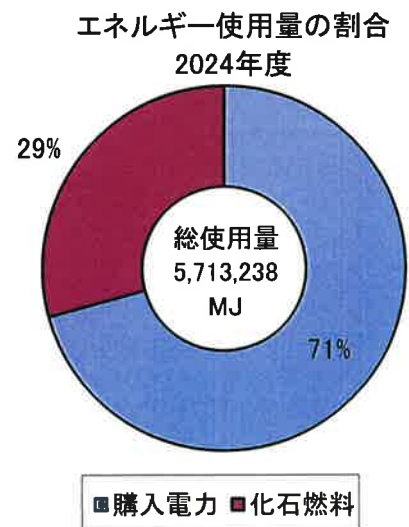
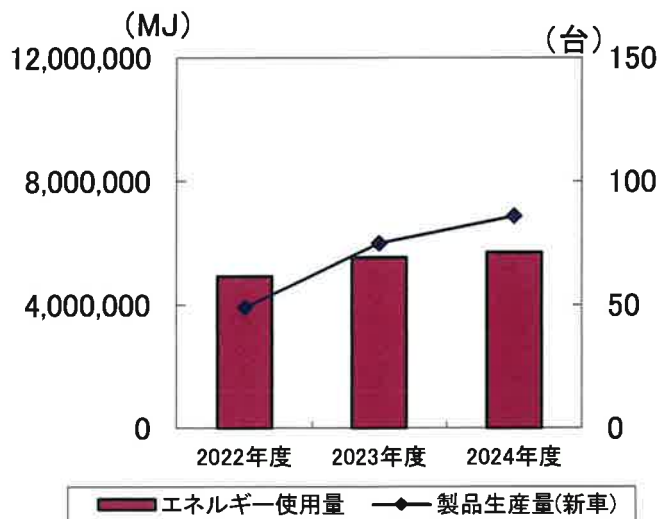
廃棄物排出量



化学物質使用量



エネルギー使用量



5. 環境経営目標 2023年度～2025年度

2021 年 4 月 制定

環境経営目標の主要項目

2024 年 4 月 改訂

重点施策		目的	環境目標			
			基準年 (2019 年度)	2023 年度	2024 年度	2025 年度
1 環境 負荷の削減	1.1 省エネルギー・ 省資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂)	340.4	330.3	327.0	323.7
		使用電気量削減 (kWh)	501,087	486,206	481,344	476,530
		都市ガス使用量 削減 (Nm ³)	20,134	19,537	19,341	19,147
		灯油使用量削減 (ℓ)	4,710	4,571	4,525	4,479
		水使用量削減 (m ³)	1,348	1,309	1,296	1,283
		化学物質使用量の 削減 (kg)	2,815	2,733	2,705	2,677
	1.2 廃棄物 削減	業務上発生する産 業廃棄物排出量の 削減 (kg)	43,090	41,812	41,394	40,980
2 環境に係る取組の 推進・向上	2.1 環境経営 システムの 有効性 維持向上	業務改善活動への 取組を通じての環 境負荷低減	—	品質システム (One1019 活 動)との連携に よる環境活動 の日常化・定着	収益改善活動 への取り組み の成果にて環 境負荷を低減 する	業務改善活動 への取り組み の成果にて環 境負荷を低減 する
	2.2 環境コミ ュニケー ションの 実施	工場周辺の 美観維持	—	工場周辺の定 期的な清掃活 動	工場周辺の定 期的な清掃活 動	工場周辺の定 期的な清掃活 動
	2.3 製品の環 境性能の 向上	日本自動車車体工 業会 (JABIA) の環 境活動への参加	—	重金属4物質フ リー宣言の継 続 新環境基準適 合ラベルの維 持	重金属4物質フ リー宣言の継 続 新環境基準適 合ラベルの維 持	重金属4物質フ リー宣言の継 続 新環境基準適 合ラベルの維 持

※ 電力の CO₂ 排出係数は 0.441 kg・CO₂/kWh (2020 年度東京電力) です

※ 基準年度は、新型コロナウイルスの影響が大きかった 2020 年度を除く直近の年度としています

※ 2023～2025 年度の削減率は基準年から年 1 %削減です

6. 今年度の環境経営計画と実績

6.1 環境負荷の削減

環境負荷項目については「環境経営目標」に掲げたとおり
「基準年（2019年度）から毎年1%の削減」を計画しています。

削減項目	計画	実績	対目標	評価
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	327	277	84%	○
使用電気量 (kWh)	481,344	405,380	84%	
都市ガス使用量 (Nm ³)	19,341	16,929	87%	
灯油使用量 (L)	4,525	4,265	94%	
水使用量 (m ³)	1,295	1,188	91%	○
化学物質使用量 (kg)	2,705	3,759	138%	×
廃棄物 (kg)	41,393	30,400	73%	○

※電気のCO₂排出係数は 0.441Kg-CO₂/kWh（2020年度東京電力 排出係数）で計算しています

※都市ガスの使用量は標準状態（Nm³）とするため、使用量（m³）×0.967で計算しています

※軽油は弊社製品（特殊車両）の燃料タンクへの給油が使用量の大部分を占めるため、上表に記載をしておりません

CO₂排出量の削減活動

CO₂排出量では、電力消費量が64%と大半を占めるため、継続的に電力消費量の削減に取り組んでいます。

取組み内容	取組み内容	実施状況	評価と次年度の取組み
電気使用量の削減	・工場高天井の不要な照明をこまめに消灯する	○	左記に記載のとおり取組んでいるものの、ここ数年の排出量はほぼ横ばいに推移しています。当社工場での製品生産量（新車）は若干減少ではあるが、外注製作車両数の大幅増により当社で作業を行う機器類の設置などによる電気使用が大きく、目に見える削減に至っていません。 次年度も活動を継続し、より効率よく電力の使用ができるよう取組みます。
	・工場、事務所の照明を昼休みに消灯する	○	
	・エアコンの推奨温度（努力目標 夏季26度 冬季20℃）を表示し、電力消費量の削減を推進する	○	
	・本工場使用電力量の管理 当月最大電力量317kWh以下を目標とする	○	



工場高天井 照明の様子



電灯の区域別個別SW化により、不要な区域で消灯を行い、電力使用量の削減しています

廃棄物排出量の削減活動

取組み内容	取組み内容	実施状況	評価と次年度の取組み
廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量の削減活動 ・ 定期的な廃棄物のコンテナ内確認・整理活動を行う ・ 上記で確認した廃棄物のうち、分解によりリサイクルに回せる有価物がある場合、その分解を行う	○	定期的に廃棄物を確認し、分解できる廃棄物は積極的に分解を行い、有価物を分離する活動や、社内掲示板での廃棄物分別の啓蒙活動や廃棄用BOXの拡充により、廃棄物の削減に有効であったと考えています。
	廃棄物分別および排出方法の見直し ・ 廃棄方法の図示と廃棄BOXの拡充	○	次年度も、社員全員の意識をより高め、廃棄物の分別と分解を進める取組を行います。



左側、廃棄物（木くず）の解体作業、および、塗料缶をつぶして、総量の圧縮に努めることで、廃棄物費用の削減に努めています。

右側、性状の表示があり、判別のつくプラスチック類も分解して分別回収しています。

また、表紙掲載は廃棄物の分解により、リサイクルに回せる有価物を分別しています。



水使用量の削減活動、化学物質使用量の削減活動

取組み内容	取組み内容	実施状況	評価と次年度の取組み
水使用量の削減	水使用量の把握と管理 ・ 水の無駄な使用をしない様に、ラベル貼付活動の維持（社員意識向上）	○	製造活動に多量の上水を使用する工程はありませんが、新造車両が11台と大幅に増えているものの、車体漏水テストによる地下水利用量は減少となっています。あわせて排水量も減少してきています。節水の呼びかけや掲示による啓蒙活動などを実施しており、社員の意識の向上により、使用量削減につながっております。
	化学物質使用量の削減 ・ 製作車両の塗装必要箇所の見直し ・ 車両ビスのタッチアップの削減 ・ シーリング材料の見直しによる塗装の削減	○	化学物質の使用量は、塗料がそのほとんどを占めます。顧客の要望により製作車両の塗料の種類がばらついた場合、総量が増える傾向となりますが、当社作成の車両減少に伴い総量は減少しております。
	化学物質使用量の把握 (PRTR、東京都適正管理化学物質 等)	○	使用量の把握は順調に行われているため、これらの情報を合わせ、他の削減手段を検討しております。



6.2 環境に係る取組の推進・向上

分類	目的	環境活動計画	実施状況	評価と次年度の取組み
環境経営システムの有効性維持向上	業務改善活動への取組を通じての環境負荷低減	赤字からの脱却のため収益改善活動への取組みに注力	○	月次管理の会議体（収支・原価・品質・工程）の運営方を確立するとともに、課題解決プロセスを出席者全員の共通認識とすることができました。結果、営業利益で計画を上回る黒字化を達成できました。次年度も業務改善への取組を継続することで着実に環境負荷低減に繋げていきます。
環境コミュニケーションの実施	工場周辺の美観維持	工場周辺の定期的な清掃活動	○	毎月1および16日に、定期活動として工場正門周辺清掃を実施しました。そのほか随時工場周辺の美化清掃を行い、周辺環境の維持に努めました。次年度も、上記の取組みを行っていきます。
製品の環境性能の向上	日本自動車車体工業会（JABIA）の環境活動への参加	重金属4物質フリー宣言の継続 新環境基準適合ラベルの維持	○	所属する業界団体であるJABIAの重金属4物質フリー宣言の継続と、新環境基準適合ラベルの維持を継続して行いました。次年度も上記の取組を行っていきながら、さらなる製品の環境性能の向上を検討していきます。

7. 環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物処理、騒音・振動、化学物質・危険物、消防、および車両・輸送関係であります。これらの法律及び条令に基づき適切に対応しており、違反はありません。また訴訟に関しては過去5年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

業務改善への取り組みの結果、今年度は営業利益で黒字へ回復することができました。

今後は「業務改善の取り組みを全社員にて実行することにより、その結果で環境負荷項目の低減に繋げる」との考えで環境経営をすすめてまいります。

また、2025年度は「全社の事業計画から全管理職の業務遂行目標への繋がり見える化」を実施することなどにより、業務改善の体制を整えます。

あわせて、2026年度の田名新工場への移転準備を完遂させるなかでも環境経営の観点を意識してすすめてまいります。